

新春法話

「十一×十で人生豊かに」

あけましておめでとーございます。

本年もようこそお地藏さんのお寺正光寺に御参拝いただきありがとうございます。

さて、昨年を振り返りますと、喜怒哀楽を感じる様々な出来事があったなかで、「だます、だまされる」といった構図の事件が相変わらず起きており、不信や疑惑がまず一年ともなりました。

そもそも私達は、この世に生まれ様々な環境の中で育っていくなかで多くの知恵を取得します。知恵を用いて生活をよりよくしようと考えるのが普通なのですが、そこに悪知恵が働くと、色々な悪事を産み出します。知恵に基づき人の福利を願って計算をすれば社会に大きな福をもたらします。しかし自分だけの損得を考えての計算は、社会に不幸をもたらします。生活を営むうえで、世界中の人びとが知恵を用いて計算するのは当然ですが、その計算一つで、社会が良くもなりし悪くもなるということを私達は、人類が歩んできた歴史から学ばなくてはなりません。

ところで、計算には単に数量を計り数えるだけではなく、結果や成り行きを予測すると意味があります。そこで今年の新春法話は、学校で習う算数の話しをするのではなく、違った角度から「十一×十」の話したいと思います。

先ず「十」たし算です。足し算は、増えること加わることが分かる計算です。増えること例えば年齢です。新年を迎えれば年齢が一つ増えます。年齢を重ね、種々の経験を通じて知識と知恵が増えていきます。そして加わるといことは、家族であり仲間です。人生における多くの出会いを教えてくれる計算です。

次に「一」ひき算。減ること失うことが分かる計算です。減るとは、年をとって体力や気力の減少、老化であり、失うとは亡くなることでもあり、人生において別れを覚えてくれる計算です。

たし算とひき算。出会いと別れを重ねることで皆さんの今の人生があることを教えてくれる計算です。

次に「×」かけ算。かけ合わせるという計算です。一人の力では微力でも、多くの人が力を出し合えば大きな力となることを教えてくれる計算です。例えば、災害時における募金。一人が百円募金しても少額ですが、一万人が募金すれば百万円、百万人が募金すれば一億円になります。

最後に「÷」割り算。均等に分けるという計算です。人生において多くの恵みを享受しますが、多くの恵みを独り占めすることなく、仲よく均等に分けることの大切さを教えてくれる計算です。しかし割り算は、割りきれず余りがでる場合があります。その場合、残ったものを争ってまで奪い合えば醜さが残りますが、譲り合って弱者に分け与えれば美徳が生まれます。

かけ算とわり算は、助け合うこと分かち合うことを通じて心を豊かにしてくれる計算です。

「十一×十」。たかが計算の記号ですが、数字を計算するのではなく、自分の人生にあてはめて計算してみると、何か尊いことを感じるのはいませんか。そして尊いことを感じる事ができれば、その計算はあなたの人生が豊かだという証です。

合掌

平成二十八年 丙申閏年

元旦

延命山正光寺 住職 高野隆晃